

【ご参考資料】

2014年10月30日

10月29日発表のブラジルの政策金利の引き上げについて

政策金利を11.00%から11.25%に引き上げ

2014年10月29日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き上げ、年率11.25%とすることを決定しました。今年4月以来4会合ぶりの利上げで、8人の委員のうち5人が今回の決定を支持しました。

市場参加者の大半は、10月26日の大統領選挙で勝利したルセフ大統領が具体的な経済・財政政策や閣僚メンバーを明らかにするまで、政策金利が据え置かれると予想していたため、今回の決定は驚きを持って受け止められました。

インフレ抑制への姿勢を示す

今回の決定の背景には、インフレ圧力緩和の兆しが見られないことがあります。9月のインフレ率は6.75%と、同中銀の許容範囲の上限である6.5%を上回っています。

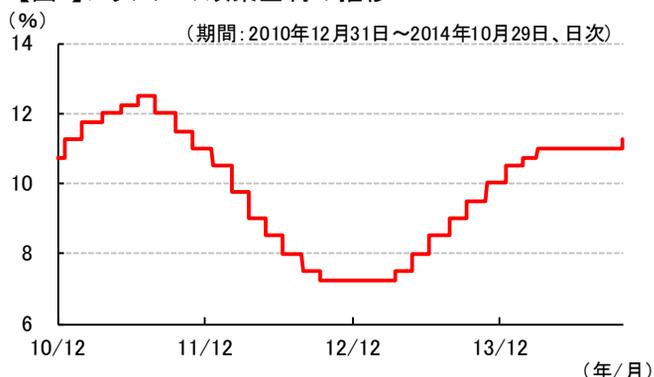
同中銀は、会合後に発表した声明で、前回9月の会合時よりもインフレリスクが高まっていると指摘し、今回の決定が2015年と2016年のインフレ見通し改善につながるとの見方を示しています。

市場では、ルセフ大統領の経済政策運営に対する懸念もある中、同中銀がインフレ期待の抑制に対して素早い行動をとったことを評価する見方もあります。

次回の金融政策決定会合は2014年12月2-3日（政策発表は日本時間12月4日）の予定です。

以上

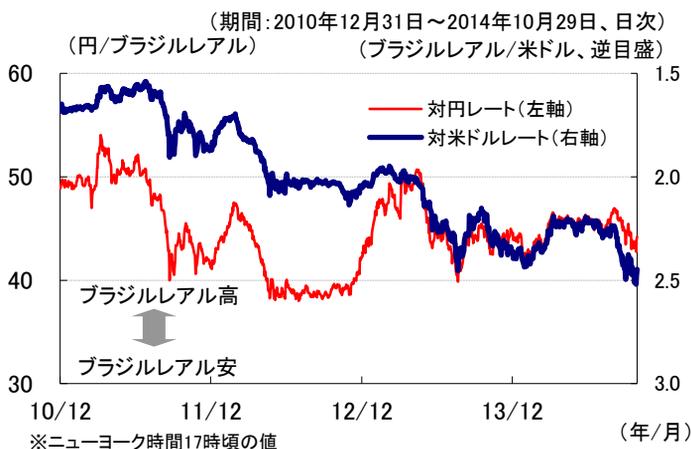
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率(拡大消費者物価指数、IPCA) (前年同月比)の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成